

令和5年度特別展

ミシンと 洋服

(温かさと思い出と)

裁縫の歴史は長く、少なくとも縄文時代には、獣骨性の針を見ることができます。大和王権成立以後、中国・朝鮮の影響を受け衣服の制度化が進みました。平安時代以降の国風文化の中、和服の時代が始まります。

大きな変化は西洋の文化を摂取し始めた、明治時代と第二次世界大戦後に現れました。明治時代以降の男性は

社会的職業的活動時の洋装、家庭での和装という二重構造の衣類生活でした。これは国民皆兵制での入営生活・軍服着用による影響とされています。

戦前の1920～30年代に洋服を着ていた女性はごく一部でしたが、第二次世界大戦突入時には、婦人標準服と呼ばれる服を着ることが政府から強く奨励されます。ただ、実際に普及したのは筒袖の上着とモンペで、各々針仕事で縫い上げていました。

極端な衣料品不足となった敗戦後の日本で、大衆の日常着が和装から洋装へと切り替わっていきな、花開いたのが「洋裁文化」でした。技術が無くても作れる直線断ちのお手製服から、最新のフランス・アメリカのファッション情報を伝える雑誌、ミシンの普及と洋裁学校の隆盛など、身近で大きく変化した衣類の歴史を考えます。

ギャラリートーク

全3回 定員各20人

各回午前10時～11時

事前申込先着順

申込先：

芦屋歴史の里（芦屋町歴史民俗資料館）

Tel: 093-222-2555

午前9時～午後5時

※月曜休館、月曜祝日の場合翌平日休館

芦屋歴史の里
(芦屋町歴史民俗資料館)

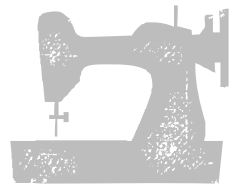


第1回

2/17(土)

テーマ：働く服と環境

申込受付期間：2/10(土)～16(金)

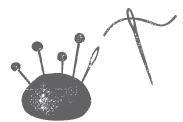


第2回

3/9(土)

テーマ：ミシンの歴史

申込受付期間：3/2(土)～8(金)



第3回

4/13(土)

テーマ：和裁・洋裁の歴史

申込受付期間：4/6(土)～12(金)

